

RAIS[®]

ART  OF FIRE

RAIS700

取扱説明書







RAIS 700

目 次

はじめに	4
保証	4
仕様	4
薪について	5
薪の乾燥と保管	5
室内の換気とストーブの関係	5
燃烧空気の制御	6
エアコントロールレバーの操作	7
コントロール	7
室内の換気とストーブ	7
初めて焚き	8
慣らし焚きの方法	8
着火と薪の補給	9
掃除と手入れ	10
燃烧室の掃除	10
長期間ストーブを使用しない場合	10
火室内の掃除	11
使用を中断する時	12

はじめに

ライスの薪ストーブをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- ご使用前には、必ず「取扱説明書」(本書)をよくお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。
- 保証書は「購入日・販売店名」の記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証

■保証書について

保証書は、取扱説明書と一緒に同梱されています。「日付・販売店名」が記載されていることをご確認いただき、お客様情報をご記入のうえ、弊社までお送りください。記入漏れがありますと、保証しかねる場合がありますので、ご注意ください。また、保証規定をよくお読みのうえ、取扱説明書とともに大切に保管してください。ストーブを改造した場合には、保証は適用できません。

■保証期間

保証期間は、保証書に記載されている期間となります。期間内に、取扱説明書に従い正常な使用で故障した場合は、保証規定に従って修理いたします。お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

仕様

	RAIS 700
定格出力 (kW)	5.2
出力 (最小 - 最大) (kW)	3 - 7
暖房面積 (m ²)	60-105
ストーブ寸法 (幅-奥行き-高さ) mm	825-485-535
上の燃焼室の寸法 (幅-奥行き-高さ) mm	562-289-300
重量 (kg)	125
効率 (%)	80
微粒子状物質 (g/kg)	2.59

薪について

日当たりが良く、風通しのいい場所で2年以上乾燥させた薪を使用してください。薪の含水率は15～22%で、薪の最大長さは、燃焼室の幅から5～6cm短くします。

湿った薪を焚くと、ススや環境に悪影響を及ぼす物質の発生、燃費やストーブに対して影響が出ます。切りたての木は約50～70%が水分です。新しく伐採した木は、使用する前に薪の状態にして、最低1年間は乾燥させてから使用します。薪の大きさにかかわらず、薪は常に皮のついていない、割口面があることが望ましいです。

塗料を塗った木、防水剤などを注入した木、表面が合成物質の木、塗装された廃材、合板、ベニヤ板、家庭ゴミ、ペーパーブリケット、坑口炭は燃やさないでください。悪臭や有毒ガスの発生の恐れや過剰な燃焼によりストーブ、煙突の損傷に繋がります。このような場合には保証は無効となります。

薪のカロリー値は、薪が含む水分量と密接な関係があります。湿った薪は水分が多く、その水分を蒸発させるためにエネルギーを使用してしまいます。

薪の乾燥と保管

薪の乾燥には時間が必要です。最低でも2年以上乾燥させ、含水率計で確認します。

アドバイス

- 薪は風通しと日当たりの良い場所で積み上げて保管してください。南向きが特に適しており、雨・雪が触れないようにします。
- 薪の水分を蒸発させるため、薪と薪の間に隙間が生まれるように積みます。
- 積んだ薪をシートなどで被わないください。水分が蒸発しにくくなります。
- 薪は、焚く2～3日前に室内に入れておきます。

室内の換気とストーブの関係

着火時に24時間換気やレンジフードが作動していると、室内が負圧の現象となり、着火しにくくなる恐れや煙、臭いが部屋に逆流することがあります。

ストーブを安全で効果的に運転するためには、絶えず十分な燃焼用の空気を供給しなければなりません。

■ 燃焼空気の制御

ライスのストーブには、片手の操作でダンパーを調整できるレバーが付いています。

一次燃焼空気は、一次燃焼空気ゾーン(炉床)に送られます。この空気は、着火段階でのみ使われます。

二次燃焼空気は、燃焼ゾーンに送られ高温加熱ガスを燃焼させるのに使います。高温加熱ガスは、予熱された空気のこと、ガラス面の掃除と燃焼に使います。二次燃焼空気は、燃焼室の下にあるダンパーから吸い込まれ、火室側面のチャンネルを通過するにつれて加熱され、高温の空気流となってガラスに向かって放出されます。これにより煤の付着を防止して、ガラスは常にクリーンな状態を保ちます。

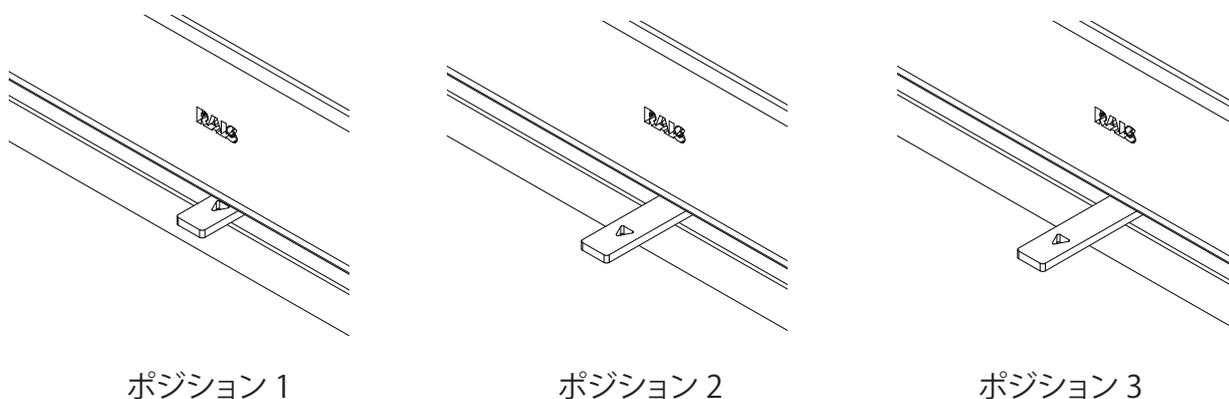
三次燃焼チャンネルは、火室上部の奥の方に向かって見えますが、最後まで残った未燃焼ガスを燃焼させます。

燃焼中はポジション1とポジション2の間で操作します。燃焼用の空気を変えることで、薪の持つエネルギーを最も望ましい形で燃焼させることができます。炎が澄んだ黄色であれば、ダンパーは正しくセットされています。使い慣れるにつれ、正しいポジションがわかってくるでしょう。

エアコントロールレバーは、早々に完全に閉めないでください。よくある間違いとしては、エアコントロールレバーをポジション1にするのが早すぎることです。薪の燃焼が不十分のなか、早くにポジション1にすることで、燃焼がうまくいきません。

■ エアコントロールレバーの操作

エアコントロールレバーの位置



空気の取り込み量の調整は3段階に分けて行います。

● ポジション 1

ダンパーはほぼ閉まっています。最低量の空気を取り込みます。

● ポジション 2

レバーを、中間位置にします。この位置では、二次燃焼用の空気を多く取り込みます。通常の燃焼では、ポジション1から2の間で使用します。炎が透明で黄色いときは、最適な燃焼状態になっています。

● ポジション 3

次に音がする所までレバーを引くとダンパーが全開し、燃焼用の空気がフルに入ってきます。この位置では、着火のときだけ使用し、通常の燃焼では使用しません。

■ コントロール

薪が燃えた後、燃焼室内に灰が白く、燃焼室の壁にすすが付いていないときは、空気調整が正しく設定され、薪も十分乾いていたということを意味します。

■ 室内の換気とストーブ

強制排気ファン(換気扇や24h換気)が作動していると、部屋に負圧の状態が起こり、煙や臭いが部屋に逆流する恐れがあります。使用時は、運転を停止するなどの処置を行ってください。

ストーブを安全で効果的に使用するには、絶えず十分な燃焼用の空気を供給していなければなりません。

■初めて焚くとき

ストーブの設置後に初めて燃焼させる場合、小さな火をおこし、徐々に高温に慣れさせていく「慣らし焚き」の作業が必要です。いきなり高温で焚いてしまうとストーブが損傷する恐れがあります。

慣らし焚き時に、ストーブから臭いや煙が発生することがあります。これは塗料が焼けるもので、加熱過程で硬化していき、臭いや煙は徐々に収まります。害はありませんが、窓を開けるなどして換気を行ってください。いつまでも臭いや煙が続くようであれば、販売店に連絡し、ご相談ください。

ストーブが暖まる時や冷えていく時に、「カン、カン」と音がします。これはストーブの素材である鉄に大きな温度変化が生じ、鉄の伸縮時に発生する音です。

着火時や火の保持のために、液体燃料は使用してはいけません。

薪の追加時など、ストーブに触れる時はグローブの着用をしてください。

■慣らし焚きの方法

1. フロントドアを開け、上部燃焼室のドームの奥側に着火剤を置き、その上に焚き付け(細い薪)を6～8本ほどを空間ができるように井桁に組みます。
2. 着火剤に点火後、ドアを少し開けた状態にしておきます。
3. 約10～15分くらいで燃焼が安定するので、さらに少し太めの薪を2～3本追加します。
4. そのまま薪が燃え尽きるまで放置し、ストーブ本体を冷まします。
5. 1～4を3～4回繰り返し行います。

⚠ 警告

ストーブについて取扱説明書(本書)の通りの使用方法では、臭いが室内に戻ることはありません。灰を捨てたり、薪を追加したときには、多少のにおいがするかもしれませんが、臭いが長く続くときは、放置せずに、下記の行動をとってください。

1. 室内の窓を開けて、換気を行う。
2. 薪を燃え尽きさせる。
3. ストーブを設置した販売店に連絡する。
※臭いの原因が明らかになるまで、火を焚いてはいけません。

⚠ 重要

安全のために!

小さなお子様がいる場合は、お子様がストーブに近づかないように見守るか、セーフティーフェンスなどを使用してください。

■着火と薪の補給

エアコントロールレバーをポジション3にします。

中太の薪を数本置き、その上に焚きつけ用(細い)薪を井桁に組み、着火剤を置きます。(1)

着火剤に火をつけ(2)、ドアを少し開けた状態にします。しばらくすると、炎が大きくなり(3)、煙突から吸い込む音が聞こえてきます。

炎が大きくなり、薪にある程度の火が回ったら(約10分)、ドアを閉めます。(4)

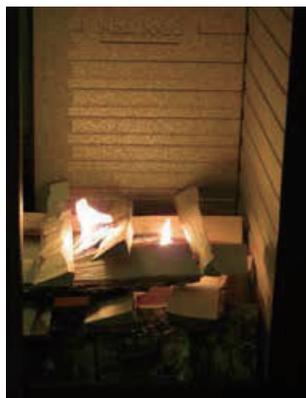
ドアを閉めてから、約5~10分後に薪に火が完全に移っているのを確認して、エアコントロールレバーをポジション2にします。その後、ポジション2から1の間で調節して、温度管理を行います。

薪の補給は、熾火が十分にある時に行います。(5)

エアコントロールレバーをポジション2にして、薪を追加します。ドアは少し開けておき、火が良く燃えてきたらドアを閉めます。



1



2



3



4



5



6

